

## Ⅱ 障がい者施策に関するヒアリング結果

### 1. 開催日程

平成 28 年 7 月 20 日～8 月 4 日（計 9 回） 各回とも時間は 18:30～20:30

日 程	会 場	ヒアリング対象者
7/20（水）	子ども総合支援センター	療育・教育・子育て支援関係者
7/21（木）	留辺薬町公民館	留辺薬自治区関係者
7/22（金）	端野総合支所	端野自治区関係者
7/26（火）	常呂町公民館	常呂自治区関係者
7/27（水）	北見市総合福祉会館	福祉サービス提供事業者
7/28（木）	北見市総合福祉会館	ボランティア・市民団体
8/2（火）	北見市総合福祉会館	知的障がいのある人・関係団体
8/3（水）	北見市総合福祉会館	精神障がいのある人・関係団体
8/4（木）	北見市総合福祉会館	身体障がいのある人・関係団体

### 2. 開催内容

#### ①障がい者計画の概要説明（行政説明）

障がい者計画策定の背景と概要について説明。

#### ②意見交換会

策定委員会のキーワードを参考に、障がい者施策に関する参加者からヒアリングを実施。

### 3. ヒアリング結果

#### （1）生活支援分野

分 類	ヒアリングでの意見と課題
相談支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者の高齢化が進む中、今後のことをきちんと考えることが大切です。相談支援に携わっている人は、今後のことを考えるきっかけづくりをしてほしいと思います。</li> <li>○ 保護者の高齢化などを踏まえ、長期的な視点で計画相談をお願いしていきたいです。</li> <li>○ 相談や手続きを行う窓口が分散しているのは不便です。できれば自治区別に一か所にまとまってほしいです。</li> <li>○ 相談支援事業所のサービスレベルに差がみられます。相談支援事業所を評価する仕組みが必要なのではないでしょうか。</li> <li>○ 障がい福祉のケアマネと介護保険のケアマネで話が通じないことがあります。ワンストップで対応できる相談窓口があればいいと思います。</li> </ul>
権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 成年後見人の養成は、現状は高齢者向けだと思います。障がいのある人向けの成年後見を考えていく必要があります。</li> <li>○ 留辺薬自治区の障がいのある人から市民後見人の要望が多く出てきています。</li> <li>○ 成年後見支援センターへの申し立て後、成年後見が決まるまで非常に時間がかかりました。市民後見人の養成などを充実させ、対応の改善を望みます。</li> </ul>

分類	ヒアリングでの意見と課題
障がい福祉サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>○在宅重症児は入院等により保護者の付き添いの負担が大きいです。入院時に利用できるコミュニケーション支援事業などの福祉サービスを検討してほしいです。</li> <li>○在宅重症児は学校卒業後の日中活動の場がなく活動量が低下してしまいます。保護者のレスパイトの意味も含め在宅重症児の日中活動の場をつくってほしいです。</li> <li>○スマイルカレッジ等の障がいのある人とない人とが育み合える取組において、いつも出てきている学校の先生の負担が大きいため、何か手だてはないかと考えています。</li> <li>○ライフステージに合った一貫した支援に関して、それぞれの障がいのある人に合った組み立て方というものを誰がやるのか、行政が中心になって、みんなを動かすような、そんな働きかけを行ってほしいです。</li> <li>○高齢化が進む中、親なき後を見据えて、グループホームなど親と離れて生活する場を増やすことも考えていくことが必要です。</li> <li>○留辺蘂自治区には移動支援事業所がなく、通院や療育等での移動が課題になっていると思います。</li> <li>○訪問系サービスはニーズが多いですが、サービス提供側の人数が不足しており、来てもらえないこともあります。</li> <li>○障がいのある人が今後高齢化していった時に受け入れてくれる施設があるかどうかなど、漠然と不安を感じます。</li> <li>○自治区によるサービス提供の格差があります。特に常呂自治区は、障がい福祉サービス事業所がない状況です。</li> <li>○障がいのある人の高齢化、重度化に伴って施設職員の配置数では手が足りなくなってきました。</li> <li>○人材確保が非常に厳しいです。採用においては資質の面でも非常に厳しい状況にあります。圏域の中で人材を育成する仕組みを作っていかなければいけないと感じています。</li> <li>○国の動き等も考慮し、施設入所者の定数を減らすことについて、市と検討していかねばいけない時期が来るのではと考えています。</li> <li>○グループホームでも高齢化、重度化が進んできており、グループホームで支えきれない人に対してどのような対応を行っていくかが市の課題と考えます。</li> <li>○行政側で障がいのある人の家族全体の状況を把握し、状況を総合的にみてもらえると、一人ひとりに適切なサービス利用につながると思います。</li> <li>○重度心身障がい者、特に大人の重度心身障がい者の居場所がありません。</li> <li>○児童の預け先となる事業所が少ないです。現在、待機も出ています。</li> <li>○精神疾患の方で入院されている場合は医療の段階にあるため、一時的に通所を利用して事業所に加算がありません。なんとかならないでしょうか。</li> <li>○生活介護と就労Bを併用して利用することで入院が防げられるケースがありました。制度上、併用できませんでした。</li> <li>○認定審査は月に1回実施されていますが、1度逃すと1か月待たなければなりません。頻度を増やしてほしいと感じます。</li> <li>○高齢化の進展に伴い、保護者の意向により施設で看取るケースが出てきています。</li> <li>○手帳を持つことができない人など、制度のはざまにいる人への支援を事業所が自助努力でなんとかしている面が多々あります。市はそういう現場の身近で大切な部分を知ってほしいし、それに対する支援もしてほしいです。（例えば、障がいのある人を対象としたレンタル等）</li> <li>○社会福祉協議会が金銭管理等の支援を行っていることを知らない人がいます。もっと周知が必要です。</li> <li>○障がい福祉サービスの制度の隙間部分にもっと目を向けてほしいです。</li> <li>○市内に宿泊型の自立訓練サービスがありません。</li> <li>○日常生活支援事業では、もっと広がりのある対応を行ってほしいと感じます。</li> </ul>

(2) 保健・医療分野

分類	ヒアリングでの意見と課題
保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 4歳時健診からの対応では遅いです。6か月健診から対応してほしいです。他県での取組で効果が出ています。</li> <li>○ 自閉症、発達障がいや早期発見、早期療育が大切です。子どもへの支援も必要ですが、保護者への支援が子どもへの一番の支援になります。子どもと向き合っている保護者が、頑張っているように見えるような支援を重点的に考えてほしいです。</li> <li>○ 早期発見や早期療育に関する知識を得る学習機会を増やしてほしいです。</li> <li>○ 市役所、事業所、学校で情報共有できていないと感じることがあります。ケース会議での情報共有も必要です。特定の障がいのある人に対応するチームづくりができればいいと思います。</li> </ul>
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 常呂から北見市内へのバス運行は一日3回のみで通院は非常に不便です。バスが利用できない場合、何らかの方法で移動支援等できないものでしょうか。</li> </ul>
精神障がい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 精神障がいのある人との接し方が非常に難しいです。</li> <li>○ 高齢者が精神障がいを持っていると、介護保険・障がいの両方で入所できないケースがあります。</li> <li>○ 若年性認知症の方が多くなってきていると感じます。知的障がいがあり、認知症を併発している人もいて、退院後の受け入れ先が見つからないことがあります。</li> <li>○ 金銭管理が必要な人は多数います。金銭管理のサービスを利用する人の中には、管理している人をいじめるようなことがあります。第三者的にアドバイスをくれるような仕組みがあるといいです。</li> <li>○ 金銭管理は主従関係が生まれてしまったり、信頼関係がなければ成立しない部分があるため、金銭管理に関しては支援サービスを提供している人とは別の人間がやった方がいいと考えています。</li> </ul>
発達障がい 難病患者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ADHD の発達障がいがある子どもがいますが、手帳を発行してもらえません。手帳を発行してもらえない子どもが大人になった時に自立できるか心配です。手帳がないとジョブコーチなどの支援を受けられず、将来が心配です。</li> <li>○ どのような支援のニーズがあるか洗い出し、施策を行っていく必要があります。</li> <li>○ 非常に稀な障がいを持つ人が相談できる、専門的、高度な知識を持った専門職の人がいる機関がほしいです。</li> <li>○ 外に出てくるのが困難な重度障がいのある人の意見も計画に反映されなければいけないのではないのでしょうか。</li> <li>○ 週3回病院で透析を受けていますが、課題となるのは通院の手段です。また透析を受けていると、施設に受け入れてもらえない現状があります。吹雪で交通機関が麻痺した場合も困っています。</li> <li>○ 生活習慣病を悪化させて透析を受けることになる人も多いです。対策が必要ではないかと感じます。</li> <li>○ 個人情報保護法の関係で、難病の人を知ることができません。制度のことを知らない難病の人も多いため、市としても機会をとらえて周知を行ってほしいです。</li> </ul>

### (3) 療育・教育分野

分類	ヒアリングでの意見と課題
療育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いろいろな特性の人がいるのがこの社会という認識を持つためには教育が大事です。一番効率が良いといわれている乳幼児の頃からサポートしていく必要があると考えます。</li> <li>○療育等の相談をしたくてもできない現状があります。</li> <li>○現状は支援をしてもらうためには判定や病名が必要です。保護者はこれらの判定を受けることに決断が必要で時間がかかってしまいます。</li> <li>○保育園内で保育士が子どもの発達について気づいたことを保護者に伝えにくい場面があります。保護者側が受け入れない場合もありますが、保護者の理解を進めるためのスムーズな方法があればと思います。</li> <li>○障がいのある子どもを持ってしまったという負い目や責任から、どうしても抱え込んでしまう保護者が多いと感じます。そういう保護者はなかなかサービス提供に結びつかなかったり、地域の方との関係を絶ってしまったりすることがあります。</li> <li>○常呂自治区に在住していますが、市内の放課後等デイサービスは送迎がないため利用できず、網走市のサービスを利用していました。また、送迎での経済的負担が非常に大きかったです。バス助成も無料から有料になりました。北見市内にいるのに、北見市内のサービスを利用できません。</li> </ul>
教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校では、子どもの障がい特性をすべて把握できず、こちらの説明が下手なこともあるためうまくいかないことがあり悩んでいます。</li> <li>○小学校ではことばの教室に通っていますが、中学校になるとなくなります。就学前は「きらり」に支えてもらいましたが、小学校に入ると支援が切れてしまいます。</li> <li>○積極的に外に出て、障がいのある人にいろいろな経験をしてもらいたいが、身近な交通機関がありません。</li> <li>○福祉教育の見直しが必要です。特別支援の教育カリキュラムは教育一般の中に位置づけられなくてはいけないのではないのでしょうか。</li> <li>○支援学級の先生が不足していると聞きます。先生の人数割り当てによりなかなかみてもらえない子どもがいます。児童館にもなかなか入れてもらえないとも聞いています。</li> <li>○中学校の総合学習のインターンシップという仕組みによる周知の方法もあります。</li> </ul>

#### (4) 就労支援分野

分類	ヒアリングでの意見と課題
一般就労	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障がいのある人にはどのような人材がいるかを企業がもっと知るため、関係機関（学校、福祉施設、市）との連携が必要です。</li> <li>○ オホーツク圏内にジョブコーチが一人しかおらず、支援してもらうことが難しいと思います。</li> <li>○ 働いていても収入が少なく、働くことが難しい人においては年金額が上がっていません。人間としてふさわしい生活をしていくためにも、障がいのある人の貧困ということを計画の中で考えてほしいです。</li> <li>○ 特別児童手当は18歳まで、障害者年金は20歳から支給となります。無年金となる2年間の支援を市として声を上げることも一つの方法だと思います。</li> <li>○ 障がいのある人を雇用する企業のバリアフリー対応は、支援を考えてほしいと思います。</li> <li>○ 職親会を含め、就労に関して充実してきていますが、職場でのトラブル等定着支援ではまだまだだと思います。</li> <li>○ 障がいの特性を理解して当事者がスムーズに仕事に就けるような体制づくりが必要と感じます。</li> <li>○ 職種を限定した給付型の奨学金制度を市で検討してほしいです。</li> <li>○ 障がいのある人が正規の仕事に就けるような企業の開拓を市で頑張してほしいです。</li> <li>○ ジョブコーチの下に支援メンバーがいるシステムが他県にあります。市民後見と同様、研修等でジョブコーチの支援メンバーを育成するような対応も必要なのではないでしょうか。</li> <li>○ 重度の障がいのある人が就労するためのサービスには支援が必要です。</li> </ul>
福祉的就労	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 就労支援事業所は以前と比べて充実してきているが、障がいのある人の就労の余地はまだあります。市として引き続き支援を続けてほしいです。</li> <li>○ 障害者優先調達法が北見市民の中にどれくらい浸透しているか気になります。計画の中に記載してほしいです。</li> </ul>

#### (5) 社会参加分野

分類	ヒアリングでの意見と課題
社会参加機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障がいがあっても日常環境の中でリフレッシュできる場があってもいいと思います（例えば、飲み屋街で飲む等）。ノーマライゼーションに関してもっと積極的に計画に盛り込んでいったらいいのではないのでしょうか。</li> <li>○ 重度の障がいのある人にとっても、その年齢に応じて当たり前前に社会参加ができ、自己実現できるような地域づくりをしてほしいです。</li> </ul>
生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会福祉協議会主催の各種教室など、参加者が固定化してきています。参加者の発掘が必要です。</li> <li>○ 教室等を行うにも、サポートしてくれる方が少なくなっていることが気になります。マンパワーの養成や発掘を計画に入れてほしいです。</li> </ul>

(6) 啓発・広報分野

分 類	ヒアリングでの意見と課題
周知・啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>○障がいのある人が学校卒業後に地域に戻ると不審者として通報されたケースを聞いたことがあります。地域の理解が必要です。</li> <li>○障がいのある人のことを周りが理解することが大事です。学校では交流学級等を通じて理解を広げて行きたいと考えていますが、障がいのある人それぞれ特性が違っていることや先生の人手不足により実現が難しい状況にあります。</li> <li>○触法障がい者に関して、取り調べ等で専門家の対応が必要です。</li> <li>○「自立とは依存先を増やすこと」。障がいのある人にとっての依存先をどう増やすかをみんなで考える、そういう計画をつくってほしいです。</li> <li>○障害者差別解消法について広報きたみに掲載されていないなど、市民への啓発が不足しています。もっと積極的に啓発に取り組んでほしいです。</li> <li>○障がい関連施設が地域にあることはわかっている、障がいの中身や普段の対応について、市民はよく知らないのが実態です。また障がいのある人への情報提供も不足しています。もっと力を尽くして情報発信をする必要があります。</li> <li>○周知にあたっては、わかりやすい言葉を使って特集を組むことや内容をシリーズ化することで、今よりもっと知ってくれる人も増えるのではないのでしょうか。</li> <li>○障害者差別解消法の施行に伴って、合理的な配慮に関する地域としての具体的な取組例を市として出してもらえると、もっと身近な制度になっていくのではと感じます。</li> <li>○福祉の理解を広げるためには、計画を福祉関係者だけでなく、市民へ説明することも必要です。</li> <li>○市民は福祉に関心が低く、啓発活動の場にはあまり参加しません。市民に知ってもらうためには、もっと知ってもらうための努力が必要です。そして、人材を育成しなければいけないと思います。</li> <li>○サービスや法律など、迅速に障がいのある人に周知できる体制づくりをすすめてほしいです。</li> <li>○市内の各種協会に登録していない人への情報の周知は現状では広報きたみのみです。協会のPRや会員の掘り起こしが必要です。</li> <li>○強度行動障がい（自閉症等）への取組を北海道が実施しています。市内にも理解が広がってほしいです。</li> </ul>
地域福祉活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一番大事なのは地域コミュニティです。近隣の人による見守りから支援が始まります。</li> <li>○地域の活動を推進するリーダーがいません。また、高齢化が非常に進んできています。</li> <li>○ボランティア活動を行っていますが、高齢化が進んできています。また、助成金も減ってきています。</li> <li>○子どもの頃から、周りの人を知ることや助けることが大切です。他市で実施している、学校にかかわるボランティアはいいと思います。</li> <li>○障がいのある人もない人も日中に集まって過ごせる場があった方がいいです。</li> <li>○介護者の高齢化が進み、障がいのある子どもを殺めるなどの事件も起こっています。介護者が介護していることを隠したままにしている人を発見できるような取組は、今後ますます必要になってくると考えられます。</li> <li>○民生委員・児童委員の活動にレベル差があります。その差を埋めるためにも、今後民生委員・児童委員の活動を活発にしていかなければなりません。また、自治会によっても活動の差があります。</li> <li>○アンケートの結果にも出てきていますが、障がいのある人への理解や関心が非常に低いと感じます。</li> </ul>

分類	ヒアリングでの意見と課題
地域福祉活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行政計画は市民にあまり知られていません。広報きたみやホームページによる方法だけでなく、周知をもっと積極的に行ってほしいです。職員が地域にもっと出ていく必要があるのではないのでしょうか。北見市全域は無理なので、指定した地域で実施するなど（モデル地区等を設定）。</li> <li>○「障がい者」や「健常者」という言葉をみんなが意識しないような世の中になってほしいです。そのためには、地域における協働や子どもの頃からの活動が必要だと思えます。</li> <li>○北見は障がいのある人のまちといえるようになってほしい、またそういう特徴があるまちには人が流れてくるような気がします。</li> <li>○地域に障がいのある人がいても、どのように声掛けしたらよいのかわからないことがあり、民生委員として入っていけない場面があります。</li> <li>○異なる障がい者団体同士の交流を深める機会があるといいです。</li> <li>○関係団体の運営者が固定化しつつあり、また人数も少なくなってきており、活動が縮小しつつあります。団体を維持する力が必要です。</li> <li>○ボランティアのマッチングの仕組みが必要です。また、マッチングを進められる人材を育成することが必要です。</li> <li>○他自治体では、障がいのある人の受け入れ可能な商店にステッカーを貼る取組があります。市として強く動くのもありなのではないのでしょうか。</li> <li>○北見地方腎臓病患者連絡会に入ってもらえる人が少ないです。</li> <li>○障がいのある人が意見を言える場をもっとほしいです。</li> <li>○手帳の申請等で障がいのある人が市の窓口に来た時には、団体の紹介や斡旋を積極的に行ってほしいです。</li> </ul>

(7) 生活環境分野

分類	ヒアリングでの意見と課題
施設環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遊休施設などで有効活用できる施設等の調査をしながら、障がいのある人の活動の場として使えるものは活用してほしいと思います。</li> </ul>
防災対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難時には当事者が慣れた環境が大切という点で、福祉避難所を指定できないでしょうか。</li> <li>○福祉避難所が指定されたものの、災害時に必要な整備を進める点で行政からの支援がほしいです。</li> <li>○災害が発生した時には、福祉避難所だけでは不足するはずで、通常の避難所に障がいのある人用の区画を作るなど、避難所マニュアルを含め、障がいのある人が安心して避難できるように考えてほしいです。また、在宅の人をどう支援していくかも考えてほしいです。</li> <li>○避難所に関して、障がい種類ごとに人を集めるということも有効だったと聞いています。同じ障がいを持っている人が集まると安心できる場所もあるので、検討してほしいです。</li> <li>○福祉避難所を今後1か所でも多く増やしてほしいです。また、福祉避難所のPRもどんどんしてほしいです。</li> <li>○災害時のときでも備蓄品等が平等にいきわたるよう、シミュレーション等の実施を検討してほしいです。</li> <li>○地域の支え合いのため、福祉避難所の災害マップを市民にも周知してほしいです。</li> <li>○発達障がいのある人は避難所でトラブルが多く問題となっています。防災では発達障がいのある人や自閉症への対応も検討してほしいです。</li> <li>○災害時には家族で過ごせるような場所に避難できたらと思います。</li> </ul>
防犯対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スマートフォンの架空請求の被害にあっている人は年に数人程度いますが、氷山の一角であると感じます。</li> </ul>

(8) コミュニケーション支援分野

分類	ヒアリングでの意見と課題
コミュニケーション支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聴覚障がいのある人は、広報車の放送を聞くことができません。災害等が発生した場合の周知についても考えてほしいです。</li> <li>○手話やガイドヘルプなどの技能を市の職員が年に1人や2人でも身につけていて、窓口だけでなく、市民が多く集まる場所に配置するといったことも考えてみてほしいです。これらを商業施設や金融機関に広げれば、やがては障がいのある人が暮らしやすいまちづくりにつながると思います。</li> <li>○病院や診療所の窓口で番号等と呼ばれる際に、声で呼びだけでなく、ホワイトボード等でもわかるようにすると、聴覚障がいのある人にもわかりやすいです。看護師の育成でこのような障がいのある人への配慮に目を向けるようなことがあれば、病院等での障がいのある人の大変さは軽減される方向に行くのではと思います。</li> <li>○ノースカロライナではカードを使ったコミュニケーションを行っている町があります。対応できないでしょうか？</li> <li>○障害者権利条約が批准され、手話は言語であるという認識になっています。手話条例が制定されている自治体もあり、現在勉強会を行っています。</li> </ul>